

よりよい授業を，チームでつくる

ハイライト：

・ 前回の研修で協議した内容を確認し、研究の方向性を共有しましょう。

・ 研究テーマを自分の課題にしていきましょう。

・ 公開授業では、授業のよさを見つけ、よりよいアイデアを生み出しましょう。

・ 協議会には、自分の課題をもつてのぞみ、明日からの授業づくりに生かしましょう。

研究の方向性を共有しましょう。

5月10日に行った本年度初めての研修では、短い時間設定の中、主体的な協議が展開され、有意義な会になりました。ここで、前回の内容を整理しておきます。

国語については、昨年度の成果として、①「読み」の目的を意識させていったことが、書く力の向上につながった。②「読むこと」と「書くこと」を連動させ、読みを書くことに活用させていったことが、書く力の向上につながった。③「読むこと」と「書くこと」をつなぐ副教材やG Tの設定が効果的だったという3点が挙げられました。

また、本年度の方向性として、①「読むこと」と「書くこと」を連動させ、読みを書くことに活用させる。②論理的に書く力を高める。③聴き合い、語り合いのある授業をつくるという3点が挙げられました。

算数については、昨年度の成果として、①ノート指導のパターン化により、見通しをもって学習できるようになった。②習熟度別指導等で、数と計算における表現・処理能力が身につけてきたという2点が挙げられました。課題としては、自分の考えを説明する力が十分に身につけていない。②数量関係などの応用問題に対して既習の考えを活用できないという2点が挙げられました。

また、本年度の方向性として、①活用力を高める授業にこだわらず、基礎的・基本的な知識・技能の習得・維持をめざす授業も継続して行う。②自分の考えを説明する活動を重視していく。③応用問題などで既習の考えを活用できるような授業づくりに取り組むといった3点が挙げられました。

研究テーマを自分の課題にしていきましょう。

前回研修での協議内容を受け、本年度の研究テーマを次のように設定したいと考えています。

基礎的・基本的な知識・技能の定着・維持・活用を図る学習指導
～チーム力を生かした2つのアプローチ形成による授業づくり～

このサブテーマは、研究推進の方法に視点をあてたものです。これから研究を推進していくにあたって、先生方が、授業づくりに「どのようにかかわっていくか」「どのように生かしていくか」がポイントとなっていきます。

具体的には、部会での指導案作成へのかかわり方、公開授

授業でのかかわり方、協議会でのかかわり方、授業参観指導へのかかわり方となります。様々な場での授業づくりにおいて、自分の授業づくりに生かしていくことを視野に入れ、自分の課題をしっかりとって主体的にかかわっていきましょう。

なお、国語と算数の授業における具体的な手だては、まだ不十分なものです。子どもたちが基礎的・基本的な知識・技能を習得・維持・活用できるように、これからの授業づくりを通して、手だてをより具体化していきましょう。

授業のよさを見つけ、よりよいアイデアを

5月17日（火）5校時に提案授業を行います。今回は、算数の「何倍でしょう」という学習を行います。この学習は、昨年度2月に5年生で公開した「割合」の学習につながるものです。

5年生の授業では、活用力と複数の問題設定をキーワードに授業を展開したのですが、考えをうまく整理できずにいた子どもも多く、課題が残るものでした。

そこで、今回の授業では、活用力と図・式・言葉での説明をキーワードに交流活動を重視した構成にしています。子どもたちの活動の様子を通して、手だての有効性を検証してください。

また、授業記録用紙の様式を変更しています。授業記録用紙には、まず、授業者が「研究テーマの〇〇をめざして、△△についての学習内容を、■ ■の方法で実施します」とねらいと手だてを簡潔に記述します。参観者は、「この手だては有効だった!」「こんな手だてを加えてみたら」の欄に、具体的な子どもたちの活動の様子と手だてを見取り、授業のよさを記入していきます。また、よりよい手だて等授業者へのアドバイスも記入して、授業者に提出します。

授業のよさを見つけ、よりよいアイデアを出し合うことが、チーム力を生かした研究につながります。

よりよい授業を生み出すためには、チームによる授業づくりが大切です

協議会には、自分の課題をもつてのぞみましょう。

今回の協議会には、3人の講師の先生にご指導いただくことになっています。

算数の学習については、筑紫野市教育委員会指導主事 鬼木務先生、研究推進の方法については、春日南中学校教頭 山崎明彦先生、研究全般については、久山町教育委員会指導主事 安部章先生にご指導いただきます。

これからの授業づくりにむけて、有意義な指導・助言をお受けすることができますので、受け身ではなく、「自分の授業づくりにどのように生かすか」しっかりと課題をもつて、協議会にの



ぞみましょう。

そこで、職員の協議の時間での主体的な発言が必要となってきます。「考えが整理できないので、うまく話せない。」「専門的なことは、よくわからないので発言しづらい。」等の理由で今の自分の課題を出せずにいると、前に進むことが遅れてしまいます。自分の成長が子どもたちの成長につながりますので、みんなで協議会を創りましょう。



次のように協議会を進めます。

司会（植田）	記録（案浦）	於：会議室
1 講師紹介（校長）		15：10
2 協議		15：15～15：50
3 指導助言		15：50～16：40
山崎教頭先生 鬼木指導主事 安部指導主事		
4 謝辞・まとめ（教頭）		16：40